



ハスの花に似た夏の花クルクマは、碧南市から年間約35万本を出荷し、全国第3位の出荷量を誇ります。仏花としての利用が定着していますが、近年は緑、白などの色とりどりの品種が栽培され、フラワーアレンジメントとして利用され始め、人気が高まっています。もっとクルクマを楽しむための話を生産者と生花店に伺いました。

問 農業水産課農政振興係 ☎95-9896

とても楽しいです。

それでも、まだまだ納得のいくようにはなっていないですね。あと数年はかかると思います。ただ、自分でこうしたらいいんじゃないかと考えて、試したことが上手いくと、

クルクマは、2月〜3月頃に球根を植え付けて育てるのですが、この球根の管理によって品質に差が出ます。クルクマの病気は主に2種類あって、一つは立ち枯れ病、もう一つは花茎や葉に褐色の病斑を作るさび斑病です。病気が出る割合を抑えるために、球根の消毒と植え付けた後の水やりは、特に気をつけています。

4年前からクルクマを栽培し始め、今年で5年目になります。以前はキクを栽培していましたが、一人でやっていることもあり、出荷期間がより長いクルクマを始めました。毎年、試行錯誤を繰り返してなんとかやっています。

試行錯誤が楽しい



JAあいち中央
碧南クルクマ部会部会長
はやしぐち いさむ
林口 勇さん

神有町在住。6品種を一人で栽培している。

クルクマは、切り花で2〜3週間程度楽しめます。環境によっては1か月なんてこともあるようです。葉をとって、花のあたりに霧吹きをかけると、持ちが良くなります。1本でもいいのでおうちにかざってもらえるとうれしいです。

碧南のクルクマは日持ちがいいと、他地域の市場でも言われます。日持ちがよくなる理由は、正確には分かっていませんが、採花したらすぐに水につけるようにしています。さらに水を入れている桶もきれいに洗って常に清潔にしています。

日持ちの良さが特徴

また、現在は6品種栽培していて、その内3品種は今年初めて栽培する品種です。JAあいち中央碧南クルクマ部会では、8人が23品種を栽培していて、新しい品種に挑戦できることも楽しく栽培できる理由です。特にこの2・3年で様々な品種の需要が高まり、多くの品種を栽培するようになりました。



△おすすめの「ラブラブ（左）」と「グリーンアイス（右）」



△空き瓶などに1本入れるだけでも
素敵に



碧南の花で夏を楽しんで



Flower's & Co. (中町)

武保 真紀子さん

パリススタイルのフラワーレッスン、オーダーメイドのウェディングブーケ、花束、アレンジ、会場装花などの販売を行う。



くくるくま
ちゃん

「おうちに花を飾りましょうプロジェクト」の碧南のクルクマPRキャラクター。武保さんのキッズレッスンに通う中学生が考案しました。

お花で季節を感じてほしい

子どもの頃からずっとお花が好きでした。皆さんにお花で季節を感じてほしいという思いでこの仕事をしています。

クルクマについても、仏花という先入観を持っていない子どもや若い人たちに碧南で栽培されている夏のお花だということを知ってもらって、どんどん魅力を伝えたいと思っています。そして、「お花」も「まち」も好きになってもらいたいです。

花瓶がなくても大丈夫

実は、クルクマをフラワーアレンジで使い始めたのは昨年からです。生産者と生花店が協力して花の地産地消を目指す「おうちに花を飾りましょうプロジェクト」に入れていただいたことがきっかけで、クルクマを使うようになりました。使ってみると、クルクマは合わせやすいお花です。同じ夏のお花のヒ

マワリやアジサイ、アンスリウムなどともマッチします。そしてドウダンツツジなどの和のお花と合わせればモダンに生けられます。しかも色彩豊かな品種があるので、かわいらしいイメージやシックなイメージなどクルクマの色によって、様々なアレンジが使いやすく、夏のフラワーギフトにはイチ押しです！

また、1本だけでも存在感があるので一輪挿しもおすすめです。家に花瓶がない人でも、空き瓶やコップなどを使えば飾れます。思い入れのある瓶に飾ると、その時の思い出がよみがえっていいかもしれませんね。クルクマは、お花が傷みやすい夏でも長く楽しめるので、一度手にとって飾ってみるとクルクマの魅力を分かっていただけだと思います！

碧南のクルクマは、あおいパークの産直市場や市内の一部生花店、JAあいち中央オンラインショップ「碧海そだち」で取り扱っています。